

2020 年度 日本語支援事業実施報告

松本 恵美

Dagvadorj Adiyanyam

東北大学大学院教育学研究科

1. 日本語支援事業の概要

本事業は、教育学研究科の外国人留学生を対象に、研究活動を行う上での実用性の高い日本語能力向上の支援を目指し、2014年度から実施されたものである。本事業は二つの活動内容が含まれている。一つは、講義形式の日本語授業である。これは、長年地域社会で日本語ボランティアをしているサポーターが日本語の文法および読解の授業を行うものである。もう一つは、対面形式による日本語添削であり、サポーターと留学生が一对一で発表資料、レポートや論文などの添削を行うものである。

今年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、対面形式での実施が困難となった。そのため、以下の5つの方法を提案し、状況に合わせて実施形式を併用・変更しながら実施していくこととした。

(1) グーグルドライブを使用したやり取り

- 学生には金曜日の午前中までに、添削してほしいファイルを担当者まで送るように伝える。
- サポーターの方々のみ、毎週金曜日 13 時 10 分に大学に集まってもらう。
- 学生から送られてきたファイルを担当者が印刷し、サポーターの方々に手渡す。
- 日本語をその場で直してもらい、添削が終了したファイルを担当者が預かる。
- 預かったファイルをスキャンし、その日のうちに学生にグーグルドライブでファイルを共有する。

*日本語支援に参加が確定した学生から順に、一人ひとり個別の共有ドライブを作成した。

(2) メールでのやり取り

- 学生には金曜日の午前中までに、添削してほしいファイルを担当者まで送るように伝える。
- 学生から送られてきたファイルを、担当者がメールでサポーターに送り、サポーターには自宅で添削をしてもらう。
- 添削が終了後、メールで担当者に返送してもらい、そのファイルをメールもしくはグーグルドライブで学生に返却する。

(3) 郵便でのやり取り

- 学生には金曜日の午前中までに、添削してほしいファイルを担当者まで送るように伝える。
- 学生から送られてきたファイルを担当者が印刷し、サポーターへ郵送し、サポーターには自宅で添削をしてもらう。

- 添削が終了後、郵送で担当者に返送してもらい、そのファイルをメールもしくはグーグルドライブで学生に返却する。

(4) パソコンを使ってオンライン上でのやり取り(Google Meet を使用)

- 木曜日までに Google Meet のミーティング URL を学生に送る。
- 金曜日の午前中にパソコン、ヘッドホン、フェイスシールドを教室に準備しておく。
- 学生には金曜日の午前中までに、オンライン上で一緒に添削をしたいファイルを担当者まで送るように伝える。
- サポーターの方々のみ、毎週金曜日 13 時 10 分に大学に集まってもらう。
- 13 時 10 分から 13 時 40 分まではサポーターにファイルを確認してもらい、13 時 40 分から学生とやり取りをしながら日本語の添削を進めてもらう。

(5) パーテーションを使用して対面でのやり取り

- 金曜日の午前中に教室にパーテーション、フェイスシールド、マスク、手袋、消毒液、体温計を準備しておく。
- 学生とサポーターの両方に大学に来てもらい、パーテーション越しにやり取りをしてもらう。
- 13 時 10 分から学生が持参した資料の添削を進めてもらう。
- 添削終了後は、資料をそのまま学生に持って帰ってもらう。

2020年10月30日に、先端教育研究実践センター長、センタースタッフ3名、サポーター5名による顔合わせ兼打ち合わせを行った。話し合いの結果、基本的には、「(1) グーグルドライブでのやり取り」と「(4) パソコンを使ってオンライン上でのやり取り」を併用して行い、日本語の添削を中心に事業を実施していくことが決まった。また、国内の新型コロナウイルス感染症の感染拡大により状況が悪化し、サポーターが大学へ来ることが困難となった場合には、「(2) メールでのやり取り」や「(3) 郵送でのやり取り」へと変更し、状況が落ち着いてきた場合には「(5) パーテーションを使用して対面でのやり取り」に変更していくこととした。



図1 (1)グーグルドライブでのやり取りの様子



(4)パソコンを使ってオンライン上でのやり取りの様子

2. 2020 年度の実施状況

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、プログラムの開始を延期し、11月から開始した。プログラムが延期されていた4月～9月の間は、留学生および日本語のサポート会に対し、定期的に現状報告をした。報告は、留学生に対して6回、サポート会に対して7回、メールにて行った。

11月以降は、開催する各回の活動内容について、開催1週間前を目途に留学生全員に案内メールを送信して情報を発信し、参加希望者を募った。参加者の人数確定後、学生には金曜日の朝10時までに添削したいファイルを担当者に送るよう伝えた。オンラインでの参加を希望した学生に対しては、その週の木曜日までに Google Meet の URL を送り、金曜日の13時40分から開始することを伝えた。

新型コロナウイルス感染症予防対策としては、パーテーションやフェイスシールドの利用、使用する教室の換気、使用する机やイス、ドアノブなどの消毒、参加者の検温（開始前後2回）などを行った。

2020年度の活動スケジュールは下記の通りである（表1）。2020年11月から2021年1月まで、計12回を実施した。原則として毎週金曜日の13:10～16:00を日本語支援事業の実施時間としていた。

表1 2020年度日本語支援事業の年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1日													1日
2日													2日
3日													3日
4日									第5回				4日
5日													5日
6日								第1回					6日
7日													7日
8日										第9回			8日
9日													9日
10日													10日
11日									第6回				11日
12日													12日
13日								第2回					13日
14日													14日
15日										第10回			15日
16日					夏季休業						春季休業		16日
17日													17日
18日									第7回				18日
19日													19日
20日								第3回					20日
21日													21日
22日										第11回			22日
23日													23日
24日													24日
25日									第8回				25日
26日													26日
27日								第4回					27日
28日													28日
29日										第12回			29日
30日													30日
31日													31日

3. 2020年度の参加状況

2020年度は、13人の外国人留学生が参加し、年間を通し延べ35名が参加した(表2)。今年度は例年に比べて参加者が少なかった。理由としては、これまでと異なり対面での実施方法ではなかったこと、開始を延期していたこと、事前説明会を実施できなかったことなどが考えられる。特に今年度入学してきた学生において認知度が低かったことが、参加者が少なかったことの大きな原因の一つであると考えられる。これは、来年度以降の課題としていきたい。

参加者は、「(1)グーグルドライブでのやり取り」を希望する学生がほとんどであり、「(4)パソコンを使ってオンライン上でのやり取り」を希望した学生は年間を通して6名のみであった。学生から送られてきた文章を、サポーターのみで修正していくことは、文章の意図や書きたかった内容を学生に確認できないため、とても困難な作業であった。そのため、オンライン上で学生に文章の意図を確認しながら、学生とサポーターと一緒に文章を修正していく方法の方が望ましいように感じられた。来年度も対面での実施が難しくなった場合には、オンラインで参加する学生を増やしていくことも課題としたい。

今年度の新たな取り組みとしては、「面接練習」を日本語支援事業の一つとして実施したことであった。来年度以降も、学生が望む場合には、日本語の文章力のみでなく会話力を向上させる支援も行っていきたいと考える。留学生のニーズを把握し、サポーターの方々と意見交換を行いながら事業内容の改善に努めていきたい。

表2 2020年度日本語支援事業参加状況

	月日	参加者数	プログラム別の人数		支援者数
			(1)	(4)	
第1回	11月6日	2	2	-	4
第2回	11月13日	1	1	-	3
第3回	11月20日	1	1	-	3
第4回	11月27日	2	2	-	4
第5回	12月4日	3	2	1	6
第6回	12月11日	4	4	-	4
第7回	12月18日	4	3	1	6
第8回	12月25日	4	4	-	3
第9回	1月8日	5	4	1	4
第10回	1月15日	3	2	1	5
第11回	1月22日	3	2	1	5
第12回	1月29日	3	2	1	6
計		35			

注：(1)グーグルドライブでのやり取り（日本語添削） (4)オンライン上でのやり取り（日本語添削、面接の練習）

4. 日本語サポーターからのコメント：日本語支援事業に参加して

今年度の日本語支援事業に参加いただいたサポーターの方々より、コメントをいただいた。今年度は例年とは全く異なる方法での実施となり、サポーターの方々には慣れない中で、多くのご負担をかけてしまったことと思う。しかしながら、サポーターの方々は、新しい実施方法も前向きに受け入れ、日本語支援事業担当スタッフおよび留学生を支えてくださった。記して心より感謝申し上げたい。下記に述べられている意見や課題を参考に、来年度の日本語支援事業をさらに改善していきたいと考える。

阿曾容子氏

サポート会に参加して2年になります。この会では一番の新参者です。

最初は留学生への日本語ボランティアということで引き受けましたが、留学生は自国で日本語を勉強してきた方ばかりでしたので、話したり、書いたりすることに大きな問題は感じられませんでした。ただ、レポートや論文の記述では助詞の使い方、文末表現、文のねじれ等外国人の文表現によくみられる記述がみられました。意味は通じることが多いのですが、日本語のレベルを少しでも高めてほしいと思い、小さな手助けですが、お手伝いさせていただいております。添削が終わった後も私のチェックの仕方がこれでよかったのかどうか、自身の日本語力の乏しさに落ち込むこともしばしばです。ただ、今期から松本先生はじめ、グループの方々と添削を確認し合うことができ、大変心強く思っております。

奥平正子氏

2020年の春から、かつて経験したことのない感染症（コロナ）が日本全国に拡大していた為、例年の5月の連休明けからのサポート会の活動はできないのではないかと感じておりました。

9月末になり、松本助教からの連絡が入りまして、何人かの留学生からサポート会への要請がある事を知り、私を含むサポーターは悩みながらも活動出来る嬉しさを感じました。

10月に入り、学内では感染防止を第一とした具体的かつ安全な指導方法の検討が始められている事を松本助教から、度々、メールにて送信して頂きました。

私達は自分は若いつもりでも、何れも高齢者ばかりですので、先生方も御苦勞を重ねられて検討して下さいました結果だと感謝致しました。

・10月上旬に提示いただいた4つの方法

①郵送 ②メールでの遣り取り ③パーテーションで区切ったの遣り取り ④オンライン上でパソコンを使用する指導

・10月下旬に提示いただいた5つの方法

①グーグルドライブでの遣り取り ②メールでの遣り取り ③郵送 ④オンライン上でパソコンを使用する指導 ⑤パーテーションで区切ったの遣り取り

結果的には、在籍7名のサポーターの中から、5名での参加となり、10月下旬に提示された中の①案、④案での方法で添削指導をする事になりました。

私にとって、グーグルドライブは初めて耳にした言葉でしたが、結果的には感染リスクのない、そし

て、人と人の対面活動の不可能な時期には、とても理にかなった良い方法だと実感いたしました。また、その日のうちに学生に添削結果を送り返すことができる事も、論文提出の迫った時には有意義かと思えます。

また、以前の活動では毎年、「金曜日の午後には大事な授業が入っているので、残念ですが、出席できません～」と残念がる学生や、「金曜日以外の曜日にも催してもらえませんか？」という何人かの学生からの希望を耳にした事がありました。ただ、私達サポーターは他にも、仕事や活動をしておりますので、「ご免なさいね…金曜日だけなんです」と言っても要望に応える事が出来なくて、気の毒な場面が多々ありました。

今回のグーグルドライブという方法なら、松本先生にはお手数をお掛けしますが、間接的な形での添削指導ができるのではないかと、他のサポーターの方とも話し合ったところです。

今後の課題としては、サポーターの若返りを図らねば、という事だと思います。今までの経験から考えても、指導力は当然のこととして、グループ活動を受け入れる事の出来る方、といった条件に合う指導者でなければならず困惑しております。

最後になりましたが、今年度からの担当の松本先生には、今までになく細部にわたり、ご配慮いただきまして、心から感謝いたしております。お世話になりました、有り難うございました。

佐々木市子氏

母国語でない言葉であれだけの内容の文章を書く留学生の皆さんに感心しています。いろいろなテーマの文章にこちらも刺激を受けています。ただ、文章についてこうした方が分かりやすいなどと思うのですが、それをうまく文法的に説明できないことがしばしばあって、自分の勉強不足を感じています。私も勉強しなければと思います。

今年度はコロナで留学生の皆さんに直接お会いすることが出来ませんでした。直接お会いした方が伝わることもあると思うし、なによりおしゃべりするのが楽しいので、来年度コロナが無事収束することを祈っております。

馬場徐子氏

今期は対面ではなく、主として紙面上でのみの校正でした。対面であれば、日本語として意味が伝わりにくい部分に対して直接本人に聞けるものが、今回は、いわば一方通行で修正しています。修正が学生の納得のいくものであったのか、あるいは意図とずれてはいなかったのか、不安は残ります。

その点、このコロナ渦においてはオンラインによる対応の方が紙面上のみよりは好ましいと感じました。今回は、私が学生にオンラインで修正を伝え、同時に松本先生が画面上の修正を進めるという、1人の学生に2人で対応したため速く進めることができましたが、今後オンラインの希望が増え複数人に対応することになると効率は悪くなる可能性もあります。

私が初めて会に参加して4年になりますが、その頃に比べて留学生の日本語は、会話はもとより文章もレベルはかなり高くなっているように感じています。母国での日本語専攻者が増えていたり、ITを上

手く活用したりして努力もしているのでしょう。たとえば、前回、主語と述部が呼応していない文の修正で2通りの文を示し、何れの言い回しにしたいか尋ねたところ迷うことなくすぐに答えが返ってきました。そのレスポンスの速さに日本語理解の程度がうかがえ、嬉しかったです。

日本、そして東北大学を選んでやってきた留学生の熱意に応えるべく親しみと敬意をもって活動に参加していきたいと思っています。

米川慎一氏

2014年にスタートした留学生への日本語支援は、文章の添削、講読、授業などを中心に行われていたが、今年度はコロナ禍という特殊な状況の中で、留学生と直接触れ合うことなく感染予防対策を講じて行われた。そのため活動内容は、あらかじめ準備された文章の添削と一部オンラインでのやりとりに限られた。レポートや論文の添削作業を行う上で、書き手不在の単独作業となり、書き手の意思が伝わりにくく、また十分な説明ができず機械的な作業にならざるを得なかったことは残念であり反省点でもある。

今回添削作業を行う中で気がついたことは、文章自体に間違いはないものの接続詞が正しく使われておらず、書き手の意思が理解しづらい文章が多いことだった。接続詞の使い方次第で論理的でわかり易い文章になると思う。一例ではあるが、今後も留意して指導していきたい。

言語の習得には、その国の文化、習慣を知ることが大事だと言われる。その意味でも次年度は、留学生への直接サポート、交流が可能になることを期待したい。